

「5・3 憲法集会」

2015年05月04日

昨日「平和といのちと人権を！5・3 憲法集会」が横浜・臨海パークで開催された。この集会は日比谷公会堂で行われるのが恒例で、私は毎年参加してきた。臨海パークは交通の便が多少悪かったが、約3万人（主催者発表）が集まった。若い人々の参加が目についた。戦争をする国を目指して暴走する安倍政権に対する危機感を持っているからであろう。歌、太鼓あり、スピーチ、アピールありで盛会であった。大江健三郎氏が参加者に下記の文言で賛同を求めた。「私たちは『平和』と『いのちの尊厳』を基本に、日本国憲法を守り、生かします。集団的自衛権の行使に反対し、戦争のためのすべての法制度に反対します。脱原発を求めます。平等な社会を希求し、貧困・格差の是正を求めます。人権をまもり、差別を許さず、多文化共生の社会を求めます。」

2004年に9名の文化人が「憲法九条」を守ろうとアピールを出した。その最後で下記のように呼びかけている。「私たちは、平和を求める世界の市民と手をつなぐために、あらためて憲法九条を激動する世界に輝かせたいと考えます。そのためには、この国の主権者である国民一人ひとりが、九条を持つ日本国憲法を、自分のものとして選び直し、日々行使していくことが必要です。それは、国の未来の在り方に対する、主権者の責任です。日本と世界の平和な未来のために、日本国憲法を守るという一点で手をつなぎ、『改憲』のくわだてを阻むため、一人ひとりができる、あらゆる努力を、いまずぐ始めることを訴えます。」呼びかけた9人の内、井上ひさし氏、小田実氏、加藤周一氏、三木睦子氏が亡くなられた。そして、1月26日に、憲法学者の奥平康弘氏も急逝された。亡くなる前日「調布九条の会『憲法ひろば』創立10周年記念」集会で講演をしている。「平和主義」は長い歴史的背景の中で培われてきた普遍的な原理であり、先人たち、キリスト教的バックグラウンド、カント哲学などに基づき、積み重ねてきた理念的なもの、哲学的なものであると語った後、次のように述べている。「『平和主義』という言葉は、ずっと日本国の中に浸透しているわけですけど、浸透していればこそ、この『平和主義』をなんとかしてぶつきたい。で、ぶつけるのに、事もあろうに『積極的平和主義』という言葉を援用するわけです。『積極的平和主義』と言っています。これはもう台無しです。なぜなら『平和主義』じゃないからです。」

亡くなる直前、奥様に「君はこのごろ平和についてどう考えてる」と声をかけたそうである。「東京新聞」は奥平氏の奥様へのこの問いに対して、読者からの「返信」を、二日に渡って特集している。府中市在住の青木義紀牧師が次のように返信している。「（安倍）首相が『積極的平和』と言うのなら、この国を攻撃しようという発想すら持たなくなるような、善意に満ちた外交を諸国に対して行っていただきたいと思います。その外交努力なしに、防衛費や人材を国民に求めて『国を守る』というのは、何かおかしくありませんか。」

憲法解釈によって集団的自衛権行使を容認することは九条を空洞化する。条文と現実の乖離が言葉の不信を生み、虚無を深め、文化を腐敗させる。分断させられ弱小化した野党の中には、憲法改定を主張する政党もある。彼らが3分の2以上を獲得し、国会で改定を決議する可能性もある。国民投票になるが、改定に「ノー」を付きつければ、自民党は政権を失う。私の夢は国民の過半数が「ノー」を表明し、憲法を守り抜くことである。そのために、全国に7,500もある「九条の会」の草の根の活動で地道に隣人に「平和」を訴え続けることであると思っている。